

「千代田区ふるさと検定」の活用による大学・地域間の交流推進

家政学部児童学科 本澤 淳子 本澤ゼミ

研究経過及び本年度の位相

本研究は「小学生及び区民を対象にした千代田区地域素材の教材化に関する実践的研究」の7年目にあたる。

◆第Ⅰ期(2016～2018年度)

「千代田区子ども検定」の作成・冊子及びWebによる発信。(2019年「千代田区ふるさと検定」と改称。)



◆第Ⅱ期(2019年度)

「千代田区ふるさと検定」の発展として、「千代田区ふるさとカルタ」及びデジタルストーリーテリング「ちよさんぽ」を作成・発信。



◆第Ⅲ期(2020～2022年度)

GPSクイズラリーを作成、実施。「千代田区ふるさとカルタ大会」の実施。日めくりカレンダーの作成、活用。

研究実践の目的

「千代田区ふるさと検定」とリンクした体験型の検定としてGPSクイズラリーを作成及び大会の実施、カルタ大会の実施等を通して、千代田区ならではの魅力を発信する機会とし、大学と地域間の交流推進を図る。

研究実践についての考察

◇郷土検定は、多くの自治体や団体から発信されているが、しばらくすると枯渇していく状況が目立つ。これは発信後の利活用について積極的な計画運営がなされていない場合に多く見られ、郷土意識の向上を図る上では発信後の交流等が不可欠である。こうした考えに基づき、本研究において作成した「千代田区ふるさと検定」発信後の利活用のあり方について検討し、実践化した。年代を問わず、区内住民の「ふるさと千代田」への意識の醸成を図る機会とすることができた。

◇新型コロナの影響により、地域交流活動にも厳しい制約が求められた時期も続いたが、Webカルタ大会や検定をKahoot! で加工したクイズ大会のように実施可能な方法を探る機会として、地域交流活動のあり方をより豊かに見直すことにもなった。これを、地域との連携をさまざまな方法で広げていく契機としさらなる活性化を図っていくようにしたい。

第Ⅲ期(本年度)の研究内容・結果

(1) Kahoot! による検定問題の発信

検定問題を同時に大勢で楽しめるよう、教育アプリKahoot! で加工し「チヨワングランプリ」として発信した。四択の早押しクイズとして楽しめると地域住民から好評を得た。



「ちよとも」におけるチヨワングランプリ大会



(2) カルタ大会の企画・運営

「千代田区ふるさとカルタ」を用いて学童クラブにおけるカルタ大会を実施。新型コロナの感染状況によっては、Web上でも実施可能との見通しを得た。



学童クラブにおけるカルタ大会



(3) 日めくりカレンダーの活用

2020年度に作成した日めくりカレンダー「まいにち千代田区」を広報活動に活用した。新型コロナの影響により中止となる活動も多かったが、この日めくりカレンダーによって「千代田区ふるさと検定」や「千代田区ふるさとカルタ」に親しんでいただく機会とすることができた。



2021年度 日比谷公園におけるGPSクイズラリー